〔東京家政大学研究紀要　第 62 集（1），2022，pp. 089 ～ 096〕

日本における雨中人物画の解釈の精緻化にむけた現状と課題

廣田愛海[†1]　平野真理[†2]　三浦正江[†2]

（令和 3 年 12 月 4 日査読受理日）

Current Status and Issues for Refining the Interpretation of the Draw-a-Person-in-the-Rain Test in Japan

Ami,Hirota[†1]　Mari,Hirano[†2]　Masae,Miura[†2]

(Accepted for publication 4 December, 2021)

要約

雨中人物画は，「雨の中の人」を描くことで，描画者のストレス状況下の防衛能力をアセスメントする投影描画法の心理テストである．Hammer[3] が紹介して以来，様々な対象者に実施されてきたが，いまだ客観的な解釈指標が確立されていない．そこで，本研究では日本における雨中人物画を用いた調査研究のレビューを行い，解釈指標の精緻化に向けた課題を検討した．抽出された 16 の研究から，対象者，関連を検討した尺度，描画特徴について整理し，主に雨，雨避け，人物描画に関する解釈知見を検討したところ，描画特徴の解釈が研究によって異なり，不適応を示唆する指標との関連が多くみられていることが特徴として挙げられた．今後は，本人のネガティブ特性だけではなく，ポジティブな側面を捉えられる可能性を見出していくことが必要であると考えられた．

Abstract

The Draw-a-Person-in-the-Rain Test is a projective drawing test that assesses the drawers' ability to defend themselves in stressful situations. Since its introduction by Hammer in 1958, it has been conducted on various populations; however, an objective interpretive index has not yet been established. In this study, we reviewed research studies that involved the Draw-a-Person-in-the-Rain Test in Japan and examined issues regarding the refinement of interpretive indices. The 16 studies selected were organized according to the target populations, scales examined for association, and drawing characteristics. We then examined the interpretive findings mainly pertaining to rain, rain avoidance, and figure drawing. Results indicated that the interpretation of drawing features varies across studies and that many associations with indicators suggested maladjustment. Future studies should examine the possibility of reading not only the negative characteristics of the person but also the positive aspects.

キーワード：雨中人物画，ストレス対処，アセスメント
Key words: the Draw-a-Person-in-the-Rain test, stress coping, assessment

1. 問題と目的

雨中人物画（Draw-a-Person-in-the-Rain Test; 図 1）は，Hammer[3] によって紹介された人物画の一種で，「雨の中の人」の描画を通して，個人のストレス対処や防衛能力を読み取ろうとする投影法の心理テストである．一般的に，雨はストレス，雨避けは防衛能力，人は自己であると解釈される．Hammer[3] の原法における雨中人物画の施行は，A4 サイズの画用紙を縦置きにして，「雨の中の人を描いてください」と教示をする．本邦でも当初はその通りの教示を採用していたが，「人」という刺激語だけでは自己像とは容易に結びつかない集団や人物の抽象表現が出現しやすいことが見いだされた．そのためわが国では，主体が自己であることを明確にするために，「雨の中の私を描いてください」という教示で施行されることが多くなった[24]．

図 1 雨中人物画の例

雨中人物画はバウムテストや HTP と比べて，それほど盛んに研究が行われてきたわけではないが，提唱者の Hammer[3] によって，描画者の現在の適応状態をアセスメ

†1　東京家政大学大学院 人間生活学総合研究科 人間生活学専攻
†2　東京家政大学 人文学部 心理カウンセリング学科

ントするためのツールとして有効であることが示されている．Hammer[3] は，精神的健康の保たれた成人の描画から，「適量の雨が降る中，雨避け（傘やレインハット，レインコート）を効率的に使用して雨を避けている描画」を雨中人物画の典型例として提示した．そしてそれと対比するように，臨床群の代表的な描画として「土砂降りの雨の中で傘を持たずにただ雨に打たれている」という描画を紹介している．この描画からは，重いストレス状況に置かれ，そのストレスをただ受けるしかない状態が読みとれるとした上で，描画者の生活歴や背景にある情報から実際に重いストレス状態にあることが裏付けられたことが説明されている．また Hammer[3] は，雨中人物画に現れる描画者の病的側面を読み取ろうとした．例えば，肥満症の治療に入った男性は，普通の人物画では何も描かれていなかった背景をキャンディショップで埋めたことから，カロリー制限を受けているので無性に甘いものが食べたいという患者のストレスを露呈させたのだと結論付け，普通の人物画を描くだけでは分からない描画者の心理的な問題が，雨中人物画では表現されやすくなることを主張した．

その後，他の研究者による調査も実施されるようになり，例えば大学生に実施した調査では，大学での成績（GPA）と雨中人物画との関連から適応を予測できるとしている[28]．Verinis ら[33] の調査では，思春期の対象者が描いた雨中人物画から，神経症・パーソナリティー障害・精神障害の診断を予測できる可能性が報告され，さらに，雨中人物画で描かれた雨の量と雨の強さは描画者が感じているストレスの量を表していることを示した．1990 年代に入ってからも，雨中人物画の妥当性や指標を検討する調査が行われている．Carney[1] は「雨＝ストレス」という解釈仮説の妥当性を検討し，雨量や雨の防御が抑うつの指標として有効であったと報告し，Rossi[22] は，短期精神保健機関の患者を対象に実施した調査から，主観的なストレスレベルを測るツールとして有効性があることを主張した．また，Krom[8] は，雨中人物画を用いて，ホスピス看護師のストレスとストレス対処の関連を検討したところ，ストレスに対する防衛（雨避け）と知覚されたストレス（雨）のバランスがとれていれば対処能力を有していることになると結論付けた．そして，Russo[23] と Proto[21] の両者は，建物の中で雨を避けている描画は，ストレス状況を回避していると捉えることができるが，臨機応変に対応していると捉えることもできるとし，同じ描画でも異なる解釈がされることを指摘している．ただし，これら 5 つの研究は公に刊行されていないもの（修士論文）である．したがって海外での雨中人物画研究は，評価指標となる観点を提案する試みが行われているものの正式な論文として発表されてないため，広まっていないという現状がある．例えばバウムテストのように開放の幹は感情と理性の交流が円滑であることを示すというように，雨中人物画を臨床場面で使用する際の問題として，描画を解釈するうえで参考となる客観的な参照指標が存在しないことが指摘されている[37]．

本邦における雨中人物画研究は 80 年代後半から行われはじめ，澤柳ら[24][25] によって森田療法を受ける入院患者を対象に，雨中人物画を用いた調査が行われた．退院時に描かれた雨中人物画から，雨の中で傘を差さずにずぶ濡れで立っている描画を，病院という防御がなくなったことを受け入れていると解釈し，森田療法によって「あるがまま」を受け入れることを習得したことを示していると報告した．この調査を皮切りに，病院臨床場面[5][24][25][27]，教育現場[6][13][14][15][16][17][28][29] や司法領域[2][9][10][11][12][20][26][31][32][34][35][36]，福祉領域[18][19] と，各臨床領域で雨中人物画の活用の場が広まった．

これらの現状から言えることは，日本においても海外においても，雨中人物画の有用性を事例や調査から主張する研究が行われてはいるものの，それぞれの研究はばらばらに行われており，共通した客観的指標が得られていないという点である．例えばバウムテストのように，現在臨床場面で用いられている多くの描画テストは，海外において大規模調査を通した標準化が行われており，それらの知見を翻訳し日本でも援用することができるが，雨中人物画においてはそうした手続きをとることができない．また，気温や環境への評価は社会的・文化的背景によって評価が異なるため[7]，雨をどのように捉えるかについては，文化によって違いがあることが想定されるため，単純に海外の知見を日本にあてはめることはできない可能性がある．実際，Hammer[3] による調査では，雨の中で傘を差さずに立っている描画を重いストレス状態に置かれていると捉えていたが，澤柳ら[24][25] の調査では，不安を受け入れたと解釈しており，同じ描画でも解釈が異なっている．

本邦において，少年鑑別所をはじめとした司法領域で実証的な調査も行われているが，得られた結果が整理されておらず，論文化に至っていないものも多い．雨中人物画は，その時点での本人のストレス認知と対処能力を読み取ることのできるアセスメントツールであるが，解釈の明確な指標が定まっていないことから，描画の解釈は検査者によって様々であり，中には解釈できない描画も存在する[6]．一般的に，個人のストレス対処については質問紙で測定する方法が多く用いられるが，質問紙では個人の無意識的な側面まで測定することが難しい．そして同じ投影法の中でも，例えばロールシャッハテストは時に侵襲的なイメージが喚起されることがあるため被検査者の負担が大きくなにより検査者がどの程度熟練しているのかが重要となるため，検査を実施するうえでのハードルが高い．投影法において実施が簡便とされている描画テストの中で，雨中人物画は「雨の中の私」というテーマが与えられることで，検査者に見せる自分自身は一側面の自己であると感じ，心理的な負担を低減できるとされ，広く臨床場面で活用でき

ることが期待される．したがって，標準化に向けて解釈の基準となる実証的データの蓄積が求められている．

そこで本研究では，まず本邦における雨中人物画を用いた調査研究のレビューを行い，各研究で示された描画の指標を整理し，雨中人物画の解釈指標の精緻化にむけた課題を検討することを目的とする．

2. 方法

対象研究の選定は第一著者のみが行い，3 つの段階を踏んだ．最初に，学術論文のデータベースである CiNii・Google Scholar・J-GROBAL を用いて，「雨の中の私」「雨中人物画」をキーワードとして検索し，ヒットした論文を収集した．次に，研究の題目，抄録，入手可能な論文について研究内容を確認した後，明らかに雨中人物画とは関係のない研究を除外した．最後に，研究を精読し，(1) 専門誌論文，紀要論文，学会発表抄録，学位論文，報告書のいずれかであること，(2) 雨中人物画が調査に用いられ描画の指標について検討された論文であること，という 2 つの基準で対象を選定した．選定された対象研究については，著者，年代，論文種別，対象，示された描画指標と得られた仮説を表にまとめた．

3. 結果

文献検索の結果，前述した条件を満たした 16 本の論文が抽出された（表 1）．雨中人物画を構成する要素は，一般的に雨，人，雨除けであるが，抽出された論文においても，描画者の適応やストレス対処を読み取るために，それらの要素の描画特徴が丁寧に検討されていた．本研究の対象である研究で示された雨中人物画の研究概要と解釈仮説を表 2 にまとめた．

表 1　論文概要別ヒット件数　（件）

論文種別		発行年		対象者		描画分類	
専門誌	3	1980年代	1	精神科入院患者	1	雨	4
紀要	1	1990年代	1	中学生	1	雨量	3
大会抄録	12	2000年代	11	大学生	1	雨避け手段	3
		2010年代	3	非行少年	11	防衛の成否	7
				被虐児童	2	人物	9
						その他	1

(1) 雨描画

図 2-1 雷雨の描画例

図 2-2 横殴りの雨の描画例

今回対象とした研究において，雨の形状については言及されておらず，雷雨や風を伴う激しい雨[10) 29)]，横殴りの雨[9)]など，雨の描写について検討されていた．雨描画の代表的な例を図 2-1，図 2-2 に示す．なお，本文中に掲載している描画例はすべて著者によって作成されたものである．

激しい雨の描写は，自己主張性や他責性[29)]，神経症傾向[9)]，不安定傾向[10)]との関連が見られており，雷を伴った雨では自我防衛的な意識や攻撃性との関連[29)]が見られていた．

(2) 雨量

雨がどのくらい降っているのかについては，分析者による印象評定がほとんどであるが，緒方[18)]は，対象児童に 3 件法で雨量を評定してもらい，児童心理司 2 名による雨量の 3 件法評定の一致率を調べた．その結果，単純な一致率は 84%，Cohen’s Kappa は.76（p<.001），Spearman の順位相関係数は.88（p<.001）であり，3 件法程度の雨量評定であれば描画者と分析者の評定が概ね一致するとし，他者による雨量評定の信頼性が示され，描画者による報告がなくとも雨量の評定することが可能であることが示唆された．また緒方[19)]は，雨をストレスの指標として解釈する場合には，ストレッサーとして捉えるのではなく，ストレス反応として解釈することが有益であると主張している．すなわち雨の量は描画者のストレスへの過敏さとして捉えることも可能であると述べている．一方で雨中人物画と P-F スタディの関連を見た丹治ら[29)]は，雨の量や雨の激しさは外界からのストレスではなく，自己主張性を表しているとし，従来の雨の解釈仮説とは異なる解釈を示している．

(3) 雨避けの手段

図 3-1 傘の描画例

図 3-2 レインコートの描画例

図 3-3 雨宿りの描画例

一般的に雨をよける手段として思い浮かぶものは傘であることが多いが，雨中人物画では傘以外にもレインコートや軒下，家の中など非常に多くの雨避けの手段に出会う（図 3-1，図 3-2，図 3-3）．本研究で対象とした調査では，雨中人物画において一般的な雨避けの手段とされている傘について検討されているものは少なく，傘よりも出現率の

低いであろう雨宿り場面や屋内で雨をしのいでいる描画を分析しているものが多かった．非行少年を対象とした研究によると，雨宿り場面を描いたものは物の考え方への偏り，心気症，抑うつ，神経症の傾向といったネガティブなパーソナリティー傾向が示されていた[9]．また，屋内で雨をしのいでいる描画については，ストレスと直接向き合うことのできない無力さや自律性の乏しさというような消極的な傾向を示していた[26]．精神科入院患者を対象とした調査では，雨の当たらないところにいる雨宿り描画は直面化せず逃避している，ストレスを感じることから逃げているとしている[24]． 一方で，大学生に行った調査では，雨宿り場面を描いた者は人の役に立ちたいという志向性を持ち，問題解決型のコーピングをするというポジティブな傾向が示唆された[13]．

(4) 防衛の成功・失敗と濡れ具合

描画の中の人物が，雨避けを適切に機能させて雨を防衛できているのかについては，様々な知見が積み重ねられている．精神科入院患者が対象の調査において，傘を持たず降りしきる雨の中にずぶ濡れになって立っている描画は，退院の不安を受け入れていると解釈され，予後が良好の可能性を示唆するとポジティブな解釈がされている[24]．しかし非行少年への調査では，雨除けが不十分な描画は，ストレスに対処する手段を持ちながら完全に防ぎきれていない不安定さを表すとされており[34]，自己評価が低いことも報告されている[12]．また，雨避けが描かれていない描画と生活状況との関連を検討した調査からは，雨避けが描かれていない描画を描いた者は被害体験や自傷行為などストレスフルなイベントを体験したものが多かったことが示された[36]．このように防衛に失敗している描画（図 4）は，対象者ごとに異なる解釈が示されている．一方で，防衛に成功しているとされる人物が濡れていない描画や傘やレインコートなど雨避けが描かれた描画は，おおむね朗らかで楽天的な傾向や社会規範意識の強さを示すとし，ポジティブなパーソナリティー特性との関連がみられていた[11]．

図 4　雨避けのない描画例

(5) 人物の描かれ方・運動

中学生を対象とした調査では，印象評定において雨の中で人物が生き生きしていると受け取ることのできる描画は，ストレスを許容する指標が高いこと，また，スティックフィギュアを描いた者は，責任回避的な自己主張をする傾向があることが報告された[29]．非行少年を対象にした調査では，描かれた人物の向きの示す特徴が検討されており，正面を向いた人物は社会規範の弱さや過活動性が高く[9] [11]，右向きの人物は他責的であり[29]，後ろを向いた人物は攻撃的に振舞いやすい[32]といったネガティブな指標との関連が示された．また，人物を全身描いた者は攻撃性の指標と関連していたが[9]，人物を部分的に描いた者も攻撃的に振舞いやすい特性が表れているとされ[11]，異なる描画特徴にもかかわらず，描画の解釈が類似していた．さらに顔の描写がない描画は，攻撃性や反社会性への親和的態度を示すと報告された[32]．

人物の動きについて，非行少年を対象とした調査では，人物に動きのある描画（図 5）を描いた者は自己評価が高い傾向にあり[31]，外界への信頼感や向社会性を表すとされ[32]，ポジティブな指標との関連がみられていた．運動していることに主観的な意味づけがされている場合には，自分の能力や行動に自信が持てており，自己評価が高くなることが示唆されている[31]．また，雨除けなしで激しい運動をしている描画は自信欠如や自己評価の低さが表れているとされ，雨（ストレス）の中で自信を無くしている状態を否認する，雨（ストレス）に目もくれず行動するという強がった姿勢が投影されていることが示された[35]．人物の運動が見られない描画には，過去及び現在にストレスとなる出来事を経験していると報告された[36]．

図 5　人物に動きのある描画例

(6) 出現率が低い描画

雨中人物画は未だ実証的な研究が少ないため，あまり多く出現しない描画特徴については分析者によって解釈が異なってしまうという現状がある．その中で，大学生を対象とした調査[13]において，出現率の低い描画の表す特徴が探索的に検討されている．まず，描画全体の面積が用紙の 1/2 サイズに小さく収められている描画は，ストレス状況下において自身の状態に合わせて無理なく活動する（自分の生きやすいサイズで世界を切り取る）態度のサインとして解釈され，防衛には成功していると捉えられている．また，自分にだけ雨が降っている描画では，自分だけが他とは違うといった意識や，それを気にしている神経質さが投影されていると解釈されている．人物の描かれ方については，人物像が 2cm 未満の極小人物は，標準サイズ群と比べて自覚されたストレスに差がなく，視野を広く切り取って自分や周囲を客観的に眺めることのできる力が表れているとされた．また，黒い人物はストレスに圧倒され気味の

サインとされ，人の援助を受けにくい状態の表れであると解釈された．そして，地面から浮いている人物は，物事を悲観的に捉え，上手くいかないことは他人のせいにするといったコーピングをとりやすく，新奇なものへ反応する衝動性といった傾向が見られていた．

表 2　対象となった研究から得られた描画特徴と解釈仮説

	著者	発行年	論文種別	研究方法	対象	n	age	関連を検討した尺度	検定方法	描画分類	描画特徴	関連変数	有意差	得点	解釈仮説
①	澤柳ら	1989	専門誌	事例検討	精神科入院患者	5	-	—	—	人物	傘を持たず降りしきる雨の中にずぶ濡れになって立っている			—	退院の不安を受け入れている＝予後が良好の可能性
										雨避け手段	雨のあたらない所で雨を見ている			—	直面化せず逃避している、ストレスを感じることから逃げている
②	丹治ら	1993	専門誌	量的調査	中学2年生	116	-	P-Fスタディ	相関	雨量	雨の量・雨の激しさ	I: 自罰反応の変型		.212	自己主張性の表れ
									t 検定	雨	雷雨	e: 他責固執反応 I: 自罰反応 M: 無責逡巡反応	↑ ↑ ↓	—	通常の雨を描く場合より、雷雨を描く場合のほうが自我防衛や問題解決意識が高い
											右側からの雨（風を伴う強い雨）	E: 他罰反応 E-A: 他責 E-D: 自我防衛 E-E:	↑	—	通常の雨を描く場合より、右側からの雨（風を伴う強い雨）を描く場合のほうが自己主張性・他責性が表れている
									相関	人物	人物の強さ	e: 他責固執反応		.200	自我の強さ
											人物の生き生きさ	M: 無罰反応		.210	ストレスを許容する
									t 検定		右向きの人物	E-A: 他責 I-A: 自責 I-I:	↑ ↑ ↓	—	他責的で自責的ではない
											スティックフィギュア	E: 他罰反応の変型		—	責任回避的な自己主張をする
③	久保・雨宮	2001	大会抄録	量的調査	少年鑑別所に収容された少年	109	-	ビネー式知能検査 法務省式人格目録 法務省式態度検査	分散分析	雨	激しい雨	人格：神経症傾向 態度：自己評価	↑ ↓	—	神経症傾向、自己評価の低さ
											横殴りの雨	IQ	↓	—	知的水準が低い
											稲光	人格：爆発傾向	↑	—	攻撃的にふるまいやすい傾向
										雨避け手段		IQ	↓	—	知的水準が低い
											雨宿り	人格：偏向傾向 心気症傾向 抑うつ傾向	↑	—	ものの考え方の偏り、心気症、抑うつ、神経症
											傘を描く	態度：不良傾向 安逸傾向	↑ ↑	—	不良への親和的傾向、安逸な生活に肯定的
										人物	正面・後ろ向きの人物	態度：社会規範	↓	—	横向きの人物よりも社会規範意識が弱い
											全身像	人格：過活動傾向 爆発傾向 態度：友人 安逸	↑	—	過活動性、攻撃的な傾向で、友人や安逸な生活に肯定的
④	与那覇ら	2001	大会抄録	事例検討	少年鑑別所に収容された少年	7	-	—		防衛の成否	雨除けが不十分			—	ストレスに対処する手段を持ちながら完全に防衛できない不安定さ
⑤	黒川ら	2002	大会抄録	量的調査	少年鑑別所に収容された少年	231	17.7	法務省式人格目録 法務省式態度検査	t 検定	防衛の成否	雨避け有り	態度：社会規範	↑	—	社会規範意識が強い
										人物	正面を向いた人	人格：過活動傾向	↑	—	過活動性（刺激をすぐ行動に移す）
											部分のみの人物	人格：爆発傾向 従属傾向	↑	—	攻撃的にふるまいやすい、他者に流されやすい傾向
										防衛の成否	濡れていない	人格：軽躁傾向 態度：社会規範	↑	—	おおむね朗らかで楽天的な傾向で社会規範意識が強い
⑥	宇田ら	2002	大会抄録	量的調査	少年鑑別所に収容された少年	231	17.7	法務省式人格目録 法務省式態度検査	t 検定	人物	人物に動きがある	態度：自己評価	↑	—	自己評価が高くなる傾向
											人物の運動に意味づけがある	人格：自身欠如	↑	—	自分の能力や行動に自信を持てない傾向が低く、自己評価が高い
⑦	丸山ら	2003	大会抄録	量的調査	少年鑑別所に収容された少年	349	-	法務省式態度検査	t 検定	雨				—	雨天状況との関連が認められていないため地域性に左右されることが少ない
														—	雨を不快なストレスとする仮説を支持
										防衛の成否	雨避けなし	態度：自己評価	↓	—	自己評価低い
⑧	黒川・宇田	2003	大会抄録	量的調査	少年鑑別所に収容された少年	368	-	ビネー式知能検査 法務省式人格目録 法務省式態度検査	分散分析	雨	雨の激しさが強い	人格：不安定傾向	↑	—	周囲に関係なく気分が変わったり些細な刺激で行動が変わりやすい傾向
										防衛の成否	雨避けがない	人格：抑うつ傾向	↑	—	些細なことで気が沈み暗い気分が続く傾向
										人物	顔の描写がない	人格：偏向傾向 態度：不良 暴力発散	↑ ↑ ↑	—	ものの考えが偏り、不良に親和的であり、腕力で物事を解決したり感情を爆発させることに肯定的な傾向
⑨	関谷ら	2003	大会抄録	事例検討	少年鑑別所に収容された少年	16	-	—	t 検定	雨避け手段	人物が室内で雨を見ている（描画視点：屋外から人物正面）			—	能力的な未熟さ、庇護されたいという依存心の強さ、自立性の乏しさ
											人物が室内で雨を見ている（描画視点：屋内から人物後方）			—	困難な状況を前にして行動を起こすことができない無力感
											人物が室内におり雨を見ていない（描画視点：屋内から）			—	ストレス状況に対して自我関与せず、やり過ごそうとする受動的な姿勢（川崎, 1999）を支持 防衛が強く表向きは安定しているが実際は自律性に乏しい
											人物が鑑別所内にいる			—	不快感、雨を悲しい気分の象徴と捉える
⑩	宇田・黒川	2003	大会抄録	量的調査	少年鑑別所に収容された少年	368	17.7	法務省式人格目録 法務省式態度検査	t 検定	人物	後ろ向きの人物	人格：爆発傾向 態度：暴力発散	↑	—	攻撃的にふるまいやすい傾向
											顔の描写がない	人格：偏向傾向 態度：不良 暴力発散	↑	—	攻撃性や反社会性への親和的態度
											人物に動きがある	人格：偏向傾向 偏狭傾向 態度：社会規範 家庭	↓ ↓ ↑ ↑	—	外界への信頼感や向社会性の表れ
⑪	小澤ら	2005	大会抄録	量的調査	少年鑑別所に収容された少年	142	-	ストレスフルライフイベント（Holmes& Rahe, ）	χ2検定	防衛の成否	雨避けなし	家族からの暴力 被害体験 入院・通院 家出 自傷		4.39 8.02 4.76 3.84 3.30	雨避けが実際の生活状況を反映する可能性
⑫	与那覇ら	2005	大会抄録	量的調査	少年鑑別所に収容された少年	146	-	法務省式人格目録 法務省式態度検査	t 検定	人物	雨避けなしで激しい運動	人格：自身欠如 態度：自己評価	↑ ↓	—	雨（ストレス）の中で自信を無くしている状態を否認する 雨（ストレス）に目もくれず行動するという強がり
⑬	寄重ら	2006	大会抄録	量的調査	少年鑑別所に収容された少年	138	16.8	ストレスフルライフイベント（Holmes& Rahe, ）	χ2検定	人物	人物の運動なし	被害体験 無職		5.97 2.78	過去及び現在にストレスとなる出来事を経験している
⑭	森川友子	2012	紀要	量的調査	大学生	334	20.2	GHQ（中川・大坊, 1996） TAC-24（神村, 1995） Y－G性格検査	t 検定	その他	自分だけに降る雨（n=43）	I（劣等感） N（神経質） D（抑うつ） S（社会的外向）	↑ ↑ ↑ ↓	2.642 2.417 2.017 -1.654	劣等感が高く、神経質、抑うつ、新しい対人関係に消極的である傾向
											軒下・樹木などに雨宿り（n=27）	カタルシス 計画立案 肯定的解釈 I（:劣等感） A（支配性）	↓ ↑ ↑ ↓ ↑	2.261 -2.430 -1.746 1.647 -1.657	他者に相談することが少ないため、傍からは消極的に見えるが、自分の中では考えを進めている
											極小人物（n=18）	カタルシス R（のんき） O（主観性） C（回帰性） I（劣等感）	↓	-2.668 -2.470 -1.975 -1.748 -1.738	自己拡大に陥ることなく、視野を広くとって自分や周囲を客観的に眺めることができる
											黒い人物（n=19）	GHQ合計 カタルシス 放置・あきらめ Co（非協調性）	↑ ↓ ↑ ↑	2.812 -2.426 1.786 2.119	問題を放置したりあきらめたりする方策をとり、人を疑う傾向 ⇒ストレスに圧倒され気味のサイン
											地面から浮いている人物（n=17）	肯定的解釈 放置・あきらめ 責任転嫁 C（回帰性） R（のんき）	↓ ↑ ↑ ↑ ↑	-2.386 2.180 1.819 2.715 1.850	コーピング：物事を悲観的に捉え、上手くいかないことは他人のせいにするし、気軽かつ移りげに色悪露なものを試したがる傾向
											紙面の1/2未満の描画（n=46）	肯定的解釈 カタルシス 放置・あきらめ R（のんき） G（活動性） Co（非協調性）	↓ ↓ ↑ ↓ ↓ ↑	-2.216 -3.006 1.998 -2.949 -2.475 2.543	ストレス状況下で自分の慎重さやバイタリティに合わせて、やや抑制的に、無理のない範囲で活動する傾向
⑮	緒方	2017	専門誌	量的調査	虐待相談のあった児童	51	11			雨量				—	トラウマによる症状を自覚している場合に雨量を多く評定する ＝雨はストレス指標の一つであるトラウマ反応と関連する
⑯	緒方	2017	大会抄録	量的調査	虐待相談のあった児童	51	-	虐待体験評価尺度	相関	雨量				.88	3件法程度の雨量評定は、主観的・客観的判断が概ね一致する（雨量評定の信頼性）
										防衛の成否	濡れ具合	身体的虐待		.27	ストレス指標となり得る

4. 考察

(1) 雨の意味するもの

雨はこれまで，Hammer[3]が述べてきたように外的ストレスを表すものとして考えられてきた．しかしこれまでの研究[9][10][29]から，雨には，単純に描画者の主観的なストレス状況が投影されるだけではなく，現実のストレス状況下で自身の内に生じるアグレッシブな感情も表現されうる可能性が示唆された．また，ストレスを表す雨がどの程度の量で人物に降り注いでいるのかは，描画を解釈するうえで重要なポイントとなる．描画の解釈は分析者の裁量に委ねられる側面もある中で，他者による雨量の測定が一定の信頼性がある[18]ことは雨中人物画の長所であるといえるだろう．また，雨の量がストレス反応や自己主張性と関連していたという知見[29]から，雨の量は，客観的なストレスの量を反映するのではなく，描画者が現在どのくらいのストレスを認知しているのか，そしてそれをどのくらいアピールするのかを表していると捉えることができるだろう．

(2) 雨避けの意味するもの

ストレスの象徴とされる雨をどのように避けているのか，またどの程度避けることができているのかについては描画者本人の現在のストレス対処能力を読み取る上で重要なポイントとなる．

非行少年を対象とした調査[9][26]において，雨宿りや屋内など自分よりも大きく頑丈なものの下に身を入れる描写には，描画者のストレスに対する受動的な態度が投影されており，自分で対処行動を起こすことのできないエネルギーの少なさが表れていると考えられる．大学生への調査[13]では，雨宿りは傘以外の雨避け手段を柔軟に考える力を有していると理解され，決して雨宿りの描写が受動的な態度を示しているのではないことが示唆されている．また，精神科入院患者が対象の調査[24]において，傘を持たず降りしきる雨の中にずぶ濡れになって立っている描画は，退院の不安を受け入れているとポジティブな解釈がされているのに対し，非行少年への調査[12][34]では，ストレスを防ぎきれていない不安定や自己評価の低さが表れているとネガティブな解釈がされている．

このように，調査対象によって得られた解釈が異なることから，雨避けの解釈は，描画者の置かれている状況や背景にある情報などを描画と照らし合わせながら，総合的に考えて解釈されているのが現状である．一見，ストレスにさらされているような描画でも，一概にネガティブなものとして判断されるべきでなく，文脈によってはポジティブな対処として読み取ることのできる可能性もあると考えられる．雨中人物画において雨避けは描画を構成するうえで重要な要素であるため，解釈の一般化が急務であるといえよう．

また，描画の中で明確に表現されることの少ない濡れ具合については描画者本人から報告を受けることが必要であるが，濡れ具合の自己評定と他者評定の間には有意な相関が確認されており，第三者による評定から濡れ具合は一定程度の推測が可能であることが示されている[18]．雨避けが効率よく機能していると思われる描画でも，描画者が濡れ具合を多くイメージしているという場合も十分考えられるため，描画を正確に把握するためにも，描画後に濡れ具合を尋ねて主観的な報告を受ける必要があると考えられる．

(3) 人物の意味するもの

雨というストレスに対して積極的に対処をしているのか，受動的な対処をするのか，状況そのものを楽しもうとするのか，人物の描かれ方は描画者によって非常に多様である．ストレス下（雨の中）において「私」が何をしているのかという描写には，描画者の主体性が表れていることが伺える．中学生[29]，非行少年[9][11][31][32]を対象とした調査では，犯罪や非行に関係が深いとされている攻撃性や衝動性というようなパーソナリティー特性を測定する尺度[4]との関連を検討しているため，ネガティブな特性との関連が多く報告されている．しかしその中でも，描画に描かれた人物の動きからは，描画者のポジティブな側面が読み取れることのできる可能性が示唆された[31][32]．

(4) 解釈の難しい描画

雨中人物画は一般的な人物画と比べて描画の中にストーリーが生まれやすく，描画者によって実に多様な表現がされるため，必然的に解釈しづらい描画も出現する．今後は，出現率が低く解釈が難しい描画についても知見を重ねていく必要があるだろう．

5. 総合考察

本研究では，これまで本邦で行われてきた雨中人物画研究を概観し，主に雨，雨避け，人物の描かれ方について見出だされている解釈について整理した．それらを通して得られた，本邦における雨中人物画研究の特徴および課題を検討する．

一つ目に，描画特徴の解釈は，研究によって異なっている場合が多いということである．雨の指標については，解釈の方向性に差異が少ない印象であるが，雨避けや人物については対象者によって異なる解釈が示されていた．こうした解釈のずれが生じている理由の一つには，これまでに行われてきた調査の研究対象に偏りがあることが影響していると考えられる．本邦で実証的に行われた雨中人物画研究は，非行少年を対象としたものが多く，関連を検討している尺度も非行と関連の深いとされている特性（例えば攻撃性や社会規範意識，反社会性への親和的態度など）を測る尺度であるため，一般化することが難しい解釈仮説も存

在している．精神科に入院する臨床群などでは一定のサンプルを確保しづらいこともあるため，これまで非行少年らに行われた量的な調査で得られた解釈仮説は，今後の雨中人物画研究の参考として非常に有益な資料となるだろう．しかしながら，まずは一般的なサンプルを対象に描画を集め，雨中人物画における一般的反応を明確にした上で，種々の心理指標との関連に関するデータを蓄積することが求められる．描画を読み取る上で本人の状況や背景情報を鑑みることは大切であるが，ベーシックな部分で共通する客観的な解釈指標を確立することが課題だろう．

二つ目に，描画者から「何を描いたか」という主観的な報告を得て，それに基づいて分析した研究が少ないということである．描画者本人から何が描かれているのか，どんなイメージがあるのか，何を表現したかったのかというような報告は，描画を解釈する上で非常に有益な情報となる．野口・馬場[17]では，雨中人物画を描いた参加者から，思い浮かんでいるイメージを絵にすることができなかった不全感が語られた事が報告されている．描画テストを施行する際，「絵のうまい下手を評価するものではありません」と教示をすることが一般的だが，実際に描画者が絵を通して表現する世界を読み取ろうとするときには，描画者の画力に頼らざるを得ない．絵を描くということ自体をネガティブに捉えている者が，人物を描くときに棒人間で簡略化させるというようなこともあるため，本人から描画に関して語ってもらい，そこで得られた情報を含めた解釈をしていくことが妥当であるといえよう．

三つ目に，不適応を示唆する指標との関連を検討していることが多いということである．前述の通り，本邦で雨中人物画を用いた研究は非行少年を対象に行われたものが多く，対象者の特性上，個人のネガティブ特性との関連が検討されることが多かった．しかし，雨中人物画に表現されるものは，描画者のネガティブな要素だけではないはずである．不適応との関連を見ようとする研究の中でも，社会規範や家庭・友人への肯定的な態度を示す指標との関連も見られていたことから，雨中人物画は本人の持つポジティブな力を見つけられるテストである可能性があると推察される．今後の研究において，何らかのポジティブなサイン指標についても見出すことができれば，より雨中人物画の活用場面が広がっていくだろう．

これまでの雨中人物画研究から得られた知見を概観し，雨中人物画で得られた描画からは，言語のやり取りだけでは分からない，本人のストレス認識と，そのストレスへの向き合い方，そして対処能力を発見できるツールとして活用できる可能性が伺えた．開発者の Hammer[3]の主張した通り解釈の主軸はストレス対処であるため，今後の解釈指標の検討にあたっても，ストレス対処を中心に検討していく必要がある．そして，従来の多くの研究のように不適応のサインやネガティブ特性のアセスメントとして注目するだけでなく，本人のポジティブな側面を捉えられる可能性を見出していくことで，介入の糸口を見出すというような臨床場面での活用につなげていくことができると考える．

参考文献

1）Carney, S.M. (1992). Draw a person in the rain: A comparison of levels of stress and depression among adolescents. Pace University.

2）藤掛明 (2000). 雨の降る情景…「雨の中の私」画という描画法 刑政, 111, 2, 46-51.

3）Hammer, E. F. (1958). Clinical application of projective drawings. Illinois: Charles C. Thomas.

4）法務省 (2001). 児童虐待に関する研究（第 1 報告）法務総合研究所研究報告, 11, 130-168.

5）板橋登子 (2017). 雨中人物画からみる物質使用障害入院患者のストレス対処能力について 日本心理学会大会発表論文集, 81, 336.

6）加藤由紀・山下委希子・仲嶺裕子 (2008). 雨中人物画法において描き手は「雨のイメージ」と「私の気持ち」をどのように表現するのかー他者から見た絵の印象及び精神的健康との関連から 臨床描画研究, 23, 159-177.

7）Knez, I., & Thorsson, S. (2006). Influences of culture and environmental attitude on thermal, emotional and perceptual evaluations of a public square. International journal of biometeorology, 50, 5, 258-268.

8）Krom, C. P. (2002). Hospice nurses and the palliative care environment: Indicators of stress and coping in the Draw-a-person-in-the-Rain test. Unpublished master’s thesis, Albertus Magnus College, New Haven, Connecticut.

9）久保勉・雨宮一洋 (2001). 描画「雨の中の私」に関する研究 犯罪心理学研究, 39, 特別号, 70-71.

10）黒川潤・宇田潔子 (2003). 描画「雨の中の私」に関する基礎的研究（3） 犯罪心理学研究, 41, 特別号, 66-67.

11）黒川潤・宇田潔子・渡邉悟 (2002). 描画「雨の中の私」に関する基礎的研究（1） 犯罪心理学研究, 40, 特別号, 60-61.

12）丸山もゆる・関谷益実・外川江美・武田陽子・渡邉悟 (2003). 「雨の中の私」画における雨よけの意味について（1） 犯罪心理学研究, 41, 特別号, 62-63.

13）森川友子 (2012). 大学生の「雨の中の私」描画における気になる描画特徴の検討～ストレス反応及びコーピングとの関連～ 九州産業大学大学院心理学論集, 8, 3-13.

14）森川友子・平井達也 (2010). 大学生における「雨の中の私」画とストレス反応・ストレスコーピングとの

関連－人物の感情に注目して－　九州産業大学国際文化学部紀要, 47, 163-179.
15）仲嶺裕子 (2006).　投影の観点からみた不登校生徒との心理療法過程　カウンセリング研究, 2006, 39, 308-316.
16）仲嶺裕子・島田さつき (2008).　「雨の中の私」画を用いた保健室登校女児とのかかわり　カウンセリング研究, 41, 315-322.
17）野口つばさ・馬場史津 (2016).　雨のイメージと「雨の中の私」の関連について　中京大学心理学研究科・心理学部紀要, 15, 第 1・2 合併号, 19-25.
18）緒方康介 (2017).　虐待の被害によるストレスは「雨の中の私」に表現されるのか？　犯罪心理学研究, 54, 特別号, 12-13.
19）緒方康介 (2017).　虐待された子どもが描く「雨の中の私」とトラウマ反応－「雨≒ストレス」仮説の検証－　犯罪心理学研究, 83, 1, 3-8.
20）小澤功滋・与那覇聡・沼田朋枝・川田幸司・森田紀之 (2005).　「雨の中の私」画と生活状況の比較検討　犯罪心理学研究, 24, 特別号, 98-99.
21）Proto, M. (2007). The Draw-a-Person-in-the-Rain Test to assess burnout in prosecuting attorneys. Unpublished master's thesis, Albertus Magnus College, New Haven, Connecticut.
22）Rossi, A. (1997). The Draw-a-Person-in-the-Rain Technique: A study to determine its use as an informative, adjustment tool for direct practice social workers. Unpublished master's thesis, Southern Connecticut State University, New Haven, Connecticut.
23）Russo, A. (2007). The Draw-a-person-in-the-Rain Technique to assess stress in elementary school professionals. Unpublished master's thesis, Albertus Magnus College, New Haven, Connecticut.
24）澤柳志津江・石川元・川口浩司・大原健士郎 (1989).　「雨中人物画」にあらわれた森田療法の治療過程　臨床精神医学, 18, 1, 81-89.
25）澤柳志津江・石川元・稲川美也子・川口浩司・大原健士郎 (1991).　森田療法における雨中人物画（Draw-A-Person-in-the-Rain-Test）の活用　臨床精神医学, 20, 12, 1953-1962.
26）関谷益実・丸山もゆる・外川江美・武田陽子・渡邉悟 (2003).　「雨の中の私」画における雨よけの意味について（2）　犯罪心理学研究, 41, 特別号, 64-65.
27）杉野健二 (1995).　アルコール依存症の内観療法前後の「雨中人物画」の変化　臨床描画研究, X, 169-183.
28）高橋京子・山路めぐみ・松本和雄 (1999).　雨中人物画の学校保健的考察　関西大学教育学科研究年報, 25, 7-13.
29）丹治光浩・松本真理子・今泉寿明 (1993).　描画法におけるストレスの投影性に関する研究－課題画「坂道と私」「雨の中の私」の比較を通して－　臨床描画研究, VIII, 202-212.
30）Taylor, P. (1977). An investigation of the utility of the Draw-a-Person-In-The-Rain for assessment of stress and the prediction of achievement in college students. Dissertation Abstracts International, 38, 2-A, 712-713.
31）宇田潔子・黒川潤・渡邉悟 (2002).　描画「雨の中の私」に関する基礎的研究（2）～非行少年の自己評価について～　犯罪心理学研究, 40, 特別号, 62-63.
32）宇田潔子・黒川潤 (2003).　描画「雨の中の私」に関する基礎的研究（4）～人物の諸特徴について～　犯罪心理学研究, 41, 特別号, 68-69.
33）Verinis, J.S., Lichtenberg, E.F.& Henrich, H. (1974). The Draw-a-Person-in the-Rain technique: Its relationship to diagnostic category and other personality indicators. Journal of Clinical Psychology, 30, 407-414.
34）与那覇聡・森田紀之・中嶋彰 (2001).　描画「雨の中の私」における雨避けが不十分な描画の検討　犯罪心理学研究, 39, 特別号, 98-99.
35）与那覇聡・小澤功滋・沼田朋枝・川田幸司・森田紀之 (2005).　描画「雨の中の私」の検討 雨避けと運動の有無と，防衛の成否との関連性について　犯罪心理学研究, 42, 特別号, 100-101.
36）寄重賢太・森田紀之・沼田朋枝 (2006).　「雨の中の私」画と生活状況の比較検討（2）雨描写の仕方及び人物の運動の有無と，実際の生活状況との比較　犯罪心理学研究, 43, 特別号, 170-171.
37）Willis,L.R., Joy, S.P.& Kaiser, D.H. (2010). Draw-a-Person-in-the-Rain as an assessment of stress and coping resources.　The arts in Psychotherapy, 37, 233-239.